

WEEKLY SIGNAL

2020年4月10日(金) 1520号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

4/13(月)		4/14(火)	4/15(水)	4/16(木)	4/17(金)
無担保O/N			△ 0.087%	△ 0.001%	
銀行券	+ 700	トシ	トシ	△ 1,000	△ 2,000
財政他	△ 6,700	△ 9,000	+ 78,000	+ 8,000	△ 2,000
資金需給	△ 6,000	△ 9,000	+ 78,000	+ 7,000	△ 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	源泉税揚げ	国債発行(個人) 国債償還(2年・個人) 年金定時払い		
オペ期日	補完供給 + 300 米ドルオペ用担保供給 + 400 共通担保 △ 14,300 CP等買入 △ 100 社債等買入 △ 100	米ドルオペ用担保供給 + 400	米ドルオペ用担保供給 + 6,100	米ドルオペ用担保供給 + 14,800	米ドルオペ用担保供給 + 10,800 被災地支援 △ 1,300
オペスタート	共通担保 + 14,600 社債等買入 + 1,500 ETF買入 + 900 企業支援 + 5,600				
(日本)		日銀営業毎旬報告(4月10日現在)		対外・対内証券投資(4月5日-11日)	鉱工業生産(2月)
(海外)	欧州や香港など休場	IMF・世界銀行の春期会合(17日まで) IMFの世界経済見通し	米 ベー・ジュブツク 米 アトランタ連銀総裁の講演 米 小売売上高(3月) 米 鉱工業生産(3月) 米 NY連銀製造業景況指数(4月) G20財務相・中央銀行総裁会議	米 新規失業保険申請件数 (4月11日終了週) 米 住宅着工件数(3月) ユーロ圏 鉱工業生産(2月)	米 景気先行指標総合指数(3月) ユーロ圏 CPI(3月)

【インターバンク市場】

無担保タム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.010 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.010 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金は週初、396兆2,600億円から始まった。その後、米ドル資金供給用担保国債供給を主因に同残高は増減したが、週末となる10日には396兆9,200億円となった。無担保コールON物の加重平均金利は週初0.022%から始まったものの、調達意欲が徐々に弱まったことで低下基調となり、9日には△0.048%まで低下した。週末となる10日は、今積み期最後の三日積みとなったことで調達ニーズが高まり、同金利は△0.032%まで上昇した。タム物は1~2W物を中心に、主に△0.02%~0.000%での取引がみられた。日本銀行は9日、4月の地域経済報告(さくらレポート)を公表し、すべての地域の総括判断を引き下げた。来週は海外でIMF世界経済見通しの発表(14日)、G20財務相・中央銀行総裁会議(15日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	0.200 ~ 0.800
TDB 3M	△0.180 ~ △0.130
現先(on/1w)	0.000 ~ 0.003

＜CP＞

今週の入札発行総額は約5,000億円、週間償還額(2,300億円)を上回った。発行市場は、新型コロナウイルス対策のための予防的な資金調達を中心に活況となった。発行残高は、先週末の23兆314億円から9日時点では23兆8,400億円弱と約8,000億円増加した模様。投資家の慎重姿勢もあって、発行案件によっては減額や発行見送りとなるケースが多かった。発行レートは足切りレートが1.0%迄流れる案件も見られたが、0.20%~0.50%前後と幅広いレンジでの出会いとなった。来週の週間償還額は、約5,900億円となっている。発行市場は、5・10日発行が重なることや新型コロナウイルス対策のための資金調達もあり、発行超を予想する。発行レートは、方向感が定まらず引き続き幅広いレンジでの出会いと思われる。14日に、CP等買入れオペが4,000億円オフアーされる予定。

＜TDB＞

9日入札の6M899回債(10/12償還)の入札結果は最高落札利回り△0.1419%(前回債△0.2516%)、平均落札利回り△0.1458%(同△0.2872%)となり、入札後は△0.19%で出合が散見された。10日入札の3M900回債(7/13償還)の入札結果は、最高落札利回り△0.1202%(前回債△0.1022%)、平均落札利回り△0.1431%(同△0.1218%)となり、入札後は△0.14%~△0.15%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは3M898回債(7/6償還)は、4/6には△0.15%で取引されたものの、徐々に買い向かわれ△0.18%まで出合が見られた。同897回債(6/29償還)は、△0.18%~△0.19%のレンジで取引された。

＜レポ＞

足許GC取引は、週前半は△0.30%~△0.20%のレンジで推移。週央には一時的にレートが急低下する場面も見られたが、週後半にかけて上昇し、短期3Mの発行日となる13日受渡しでは、△0.10%を上回る水準での取引も見られた。SC取引では、2年405~411回債、5年137~142回債、10年336~358回債、20年164~171回債、30年59~65回債、40年9~12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。